

「さあ、みんなで、考えよう」

3月に卒業する梶植地域の若者たちへ

3月に卒業されるみなさん。ご卒業おめでとうございます。この季節になると、三重県内のある中学校で3年生を担任していた長島りょうがん先生(右)からうかがった話を思い出します。3月に卒業されるみなさんへのメッセージにかえて、その先生のお話を紹介します。



ある3年生の生徒が「私は私立も受けないし公立も受けないから。絶対に学校へ行きたくない」と言いました。この子はお父さんとお母さんが大嫌いで、とにかく家から出たいと思っていました。兄弟がなく、家族から愛されていましたが、特にお父さんのことが嫌でした。「私は離れて働いて、はやくアパートを借りて暮らしたい。絶対に高校は行かないから」と言って、街の海の方にある事務所を自分で見つけてきて、4月から就職しました。みんなが高校へ行く逆方向をこの生徒は会社へ行きました。一生懸命に1ヶ月働いて、やっと給料をもらえました。「この給料でやっとアパートを借りられる。嫌なお父さんやお母さんと離れて暮らせる」と思った。給料をもらったときに、その給料袋をみたら、けっこうたくさん入っていた。明細書という給料の合計額などをかいた紙に金額が書いてあった。隠れてお金をかぞえた。どう数えても1万円多かった。社長さんが寄ってきた。社長さんは「給料にプラスした1万円は、私どもの会社では、はじめて働いてはじめてもらった給料でお世話になった人にプレゼントをしてもらっています。この1万円は研修なんです。だから、報告もしてください」と言いました。

この子はそれができるのは、嫌いでしたが親しかいなかったもので、お父さんとお母さんを日曜日にファミリーレストランに連れて行きました。「私、一生懸命働いたんやわ。この1万円でお父さん、お母さん、好きなもの食べてな」と言ったら、お母さんはハンバーグランチを注文しました。680円。「めっちゃ安いやん。私、いっぱい働いたからもっといいのをたのんでよ」と言ったら、お母さんは「いや、これでいいんです。余ったお金はあんたがつかいなさい」と言ってくれた。お父さんは、腕を組んで体を揺すって、目もあわさずに天井を見ていた。「やっぱり嫌な親父やな、くっそー」と思ったが、「お父さん、何かたのんでよ」と言うと、「おう、じゃあ、ビールくれ」と言ったそうです。「他はいいの?」というと「いい。いらん」と言って、目を合わせてくれず、体を揺すっていた。しばらくしてハンバーグランチとビールが運ばれてきました。お母さんは「おいしい、おいしい」と言って食べてくれました。お父さんは腕を組んだまま、目もあわさず、不機嫌な顔をしていました。「お父さん、飲んでよ」と言うと、「おう、じゃあ、注げ」と命令してきました。ぐっと我慢して瓶ビールを持って、お父さんが差し出したコップにビールを注ぎました。そのときにお父さんの手が見えた。お父さんの手なんかしっかり見たことがなかった。コップを差し出した手の指がすべて真っ白だった。爪の中にいっぱいセメントが詰まっていた。お父さんは私が小さいときからずっとセ

メント工場^{こうじよう はたら}で働^いいていた。冬^{ふゆ}の寒^{さむ}いときも夏^{なつ}の暑^{あつ}いときもずっとセメント工場^{こうじよう はたら}で働^いいていた。一生^{いっしょうけんめい}懸命^{つめ}働^いいて爪^{つめ}のなかに詰^つまったセメント^{セメント}を見^みたときに、この子^こははじめて「ありがとう^{ありがとう}」と言^いおうと思^{おも}った。しかし、お父^{おと}さんは黙^{だま}っておけ^いばいいのに「おまえ^{おまえ}、一人^{ひとり}前^{まへ}にな^なったと思^{おも}うなよ。おまえ^{おまえ}一人でえらそうにしと^しったらあかんぞ。遊^{あそ}ぶなよ。遅^ち刻^{こく}するなよ」と説教^{せつぎよう}し始^{はじ}めた。せつかく「ありがとう^{ありがとう}」と言^いおうと思^{おも}ったのに、この子^こは腹^{はら}がた^たって、その1万円^{まんえん}をテ^おーブル^{ブル}に置^おいて、「わたしはもうええで、出^でて行^いくわ。1万円^{まんえん}で好^すきなもの食^たべてよ。これ^{これ}、会^{かい}社^{しや}に報^{ほう}告^{こく}しやなあかんのよ」と捨^すて台詞^{ざいし}を言^いって出^でて行^いきました。そし^して友^{とも}だちとカラオケボ^ボックス^{ックス}に行^いって、ず^ずっと歌^{うた}を歌^{うた}って、夜中^{よなか}の11時^じくらいに帰^{かえ}りました。

夜中^{よなか}の11時^じくらいならお父^{おと}さんもお母^{かあ}さんも寝^ねている時間^{じかん}だったが、家^{いえ}に帰^{かえ}ると電^{でん}気^きがこうこうとつ^ついていた。リビングの横^{よこ}の廊下^{ろうか}を通^{とお}ろうとしたら、お母^{かあ}さんの声^{こゑ}が聞^きこえてきた。「あのハンバ^{わたくし}ーグランチ^{わす}を私^{わたし}はよう忘^{わす}れへん。あの子^こが一^{いっ}生^{しょう}懸命^{けんめい}働^いいて、そして私^{わたし}にプレ^{プレ}ゼント^{ゼント}してく^くれた。あのハンバ^{わたくし}ーグランチ^{わす}は一^{いっ}生^{しょう}の思^{おも}い出^でや」と言^いっていました。そしたらお父^{おと}さんのボソボソした嫌^{いや}な声^{こゑ}が聞^きこえてきた。「またお父^{おと}さんは嫌^{いや}なことを言^いうんやろな。嫌^{いや}な親^{おや}父^じやな」と心^{こゝろ}の中^{なか}で思^{おも}い、そ^そと通^{とお}り過^すぎようとした。するとお父^{おと}さんが「おれ^{おれ}はあいつ^{あいつ}の顔^{かお}を見^みたら涙^{なみだ}が出^でそうやったんや。おれ^{おれ}はあいつ^{あいつ}の目^めを見^みることができ^きなかつた。あいつ^{あいつ}が生^うまれてきたときはち^ちっちゃん^ちい^い体^{てい}で生^うまれて、保^ほ育^{いく}器^きの中^{なか}に入^いっていた。あの子^こは一^{いっ}生^{しょう}懸命^{けんめい}大^{おお}きく^きな^なって^おくて、そして働^いいておれ^{おれ}にプレ^{プレ}ゼント^{ゼント}してく^くれたことが、おれ^{おれ}は幸^{しあわ}せでしかた^ななかつたんや。涙^{なみだ}が落^おちそうでおれ^{おれ}は我^が慢^{まん}して^{いた}んや。あの子^こがおれ^{おれ}らの子^こにうま^うれてきて、ほんまに幸^{しあわ}せやな」と言^いうのが聞^きこえてきた。この子^こはお父^{おと}さんのそ^そんな言^{こと}ば^ばなど聞^きいたことがな^なかつた。中^{ちゅう}学^{がく}校^{こう}を卒^{そつ}業^{ぎよう}して、春^{はる}、はじめて^{はじめて}きくお父^{おと}さんの言^{こと}ば^ばにこの子^こはそ^そこに立^たっていることができ^きません^でした。走^{はし}って階^{かい}段^{だん}を駆^かけ上^あがり、頭^{あたま}からふとんをかぶ^かって、お^おお^おな^なこ^こえ^えな^なな^なみ^みだ^だと^とう^うか^かあ^あさん^{さん}へ^への^の憎^{にく}しみ^みの^の涙^{なみだ}で^でなく、はじめて^{はじめて}心^{こゝろ}から感^{かん}謝^{しゃ}する^なみ^みだ^だで^でした。次^{つぎ}の朝^{あさ}、会^{かい}社^{しや}に行^いくとき^きに、お父^{おと}さん、お母^{かあ}さんにはじめて^{はじめて}大^{おお}きな^きこ^こえ^えで「今^{いま}まであ^ありが^がとう^うご^ござ^ざい^いま^ました^た」と^と言^いえ^えま^ました。そ^そしたらお父^{おと}さん^{さん}は相^{あい}変^かわ^わら^らず^ず顔^{かお}も見^みず^ずに後^{うし}ろ向^むきで手^てを^をあ^あげ^げた。で^でも、後^{うし}ろ姿^{すがた}でもお父^{おと}さん^{さん}の思^{おも}い^いがよ^よくわ^わか^かつ^つた。そ^そして会^{かい}社^{しや}に行^いって、社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}に報^{ほう}告^{こく}した。「社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}、私^{わたし}はた^ただ^だ泣^ないて^ばか^かり^りで^でした。はじめて^{はじめて}父^{ちち}親^{おや}の言^{こと}ば^ばを^を聞^きき^きま^ました。私^{わたし}がう^うま^まれて^きて、親^{おや}がし^しあ^あわ^わせ^せや^やつ^つた^たと^と言^いって^くれ^れた^たそ^その^のこ^こと^とば^ばで、心^{こゝろ}から私^{わたし}は感^{かん}謝^{しゃ}し^しま^ました。や^やつ^つと^と親^{おや}に^に対^{たい}する^{する}気^き持^もち^ちも^も変^かわ^わり^りま^ました。」と^と言^いうと、社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}が私^{わたし}を^を窓^{まど}際^{ぎわ}に^に呼^よび^よび^よま^ました。窓^{まど}際^{ぎわ}から太^{たい}陽^{よう}の光^{ひかり}が^が差^さし^し込^こんで^いま^ました。社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}は「こ^ここ^こにお^おま^まえ^えの影^{かげ}が^があ^ある^るだ^だらう^う？[？]影^{かげ}が^があ^ある^るこ^こと^とに^に気^きが^がつ^ついた^たこ^こと^とあ^ある^るか^か？」と^と言^いいま^ました。社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}は「あ^あん^んた^たは^はこ^この影^{かげ}で^でい^いか^かさ^されて^いる^ると思^{おも}って^ほしい。あ^あん^んた^たは^は一^{ひとり}人^にじ^じゃ^ゃな^ない。何^{なに}か^かあ^あつ^つたら^ら影^{かげ}が^がみ^みん^んな、あ^あん^んた^たを^を支^さえ^えて^くれ^れて^いる。一^{ひとり}人^にじ^じゃ^ゃな^ない^いよ。仕^し事^{ごと}も、こ^これ^れか^から^らの長^{なが}い^い人^{じん}生^{せい}も、そ^そう^う思^{おも}って^ほしい。」と^と言^いいま^ました。社^{しや}長^{ちやう}さん^{さん}はさ^さら^らに「『^おかげ^げ』の^のま^まえ^えと^とう^うしろ^ろに『^お』と『^さま^ま』を^をつ^つけ^ける。そ^そう^うす^すると『^おか^かげ^げさ^さま^ま』と^とい^いう^う言^{こと}ば^ばに^にな^なる。こ^これ^れが^が我^{わが}社^{しゃ}の^の社^{しや}訓^{くん}です^す」と^と言^いいま^ました。この^こ子^こは、何^{なに}か^かつ^つら^らい^いこ^こと^とが^があ^あつ^つたら、親^{おや}の^のこ^こと^とも^も思^{おも}う^うし、影^{かげ}を^をふ^ふと^と見^みたり^りし^しま^ます。そ^そう^うす^すると、「私^{わたし}は^は一^{ひとり}人^にじ^じゃ^ゃな^ない^いん^んだ^だ」と^と思^{おも}える^る瞬^{しゆん}間^{かん}が^があ^ある^るん^んです^す。

お話し^{お話し}の要^{よう}約^{やく}・文^{ぶん}責^{せき}・橋^{はし}本^{もと}浩^{こう}信^{しん}

さまざま^{しんろ}な道^{みち}路^ろに向^むか^かつ^つて母^ぼ校^{こう}と旅^{たび}立^だつ^つてい^いくみ^みな^なさん^{さん}、ど^どう^うか^かそ^それ^れぞ^ぞれ^れの^の学^{がく}校^{こう}で^で培^{つち}か^かつ^つた^たみ^みな^なさん^{さん}の^の出^で会^あい^いと^とか^かか^かわ^わり^りと^と大^{だい}事^じに^にし^して、心^{こゝろ}から安^{あん}心^{しん}して笑^え顔^があ^あふ^ふれる^るこ^これ^れか^から^らの^の人^{じん}生^{せい}を^を送^{おく}つ^つて^くだ^ださ^さい。み^みな^なさん^{さん}は^は誰^{だれ}一^{ひとり}人^にと^として^{して}一^{ひとり}人^にぼ^ぼら^らで^では^はな^なく、柘^{つげ}植^{おと}の^の大^{おと}人^{じん}た^たら^らは、す^すべ^べて^ての^の柘^{つげ}植^{おと}の^の子^こども^{ども}た^たら^らと^と自^じ分^{ぶん}の^の子^こども^{ども}と^と思^{おも}い、影^{かげ}と^となり^{なり}忘^{わす}れ^れず^ず続^{つづ}け^けま^ます。柘^{つげ}植^{おと}地^ち域^{いき}ま^まら^らづ^づくり^き協^{きやう}議^ぎ会^{かい}よ^より